

# 幼児の親に対する性教育講演会の意義

## Significance of sex education on parents with infants

畑中美穂

Miho HATANAKA

心といのちの性教育研究所

Lab. for Psychological Sex Education, Mind and Life

Key words: 性教育講演会, 性教育, 幼児の親, 幼児

### 目的

子への性教育は家庭の機能の一つとして重要である(高橋,2003)が実際には行き届いておらず,特に幼児に対しては幼いことを理由におざなりになりやすい。及川(1998)は,幼児が発する性に関する質問を重視しており,幼児が性について理解を深めるにあたって周囲の大人の対応は重要である。将来にわたっての子の性についての価値観に影響を及ぼし得るため,最も身近な存在である親の果たす役割は大きい。本研究では幼児期における家庭での性教育の重要性の観点から,幼児の親が性について学ぶ機会を持つことの意義について検討する。

### 方法

- (1) **研究デザイン**: 自記式調査用紙による KJ 法を参考にした質的研究法
- (2) **調査時期と対象者**: X 年 12 月~X+3 年 2 月, 西日本の A 県, B 府, C 県にある幼稚園・保育園 4 施設に在籍する幼児の親を対象とした性教育講演会の参加者
- (3) **実施概要**: 講師は助産師であり講演形式は各園の要望に従った。講演終了後に説明を行い,無記名,自由記述による調査用紙の任意の提出を以て研究への同意とした。
- (4) **分析方法**: 調査用紙提出総数 57 名分, 378 センテンスを素データとして扱い,記述内容を慎重に読み込んで段階的に抽象度を上げていき,要約して分類した。以下カテゴリー名〈〉,概念名〔〕,素データ「」で記す。

### 結果

データは,6つのカテゴリーとして〈性や性教育に関する内容〉,〈子どもとの関係に関する内容〉,〈自分自身に関する内容〉,〈講演に関する内容〉の他,講演に関係ない内容等の〈その他〉と,〈質問〉が出現した。

内容の分析により,①性教育講演会は親自身が性や生について学ぶ場として必要性があること,②子への性教育ではその土台として子との関係性が重要であること,③講演会が親の自己効力感を高めるための関わりとしての側面があること,④講演形式の違いによる特徴があり保育参観や座談会を組み合わせることでの特長があること,等が示唆された。

### 考察

幼児への性教育は「まだ先のこと」として考えたことがなかった者や,必要性を感じても「どうしたらよいかわからなかった」という記述が複数みられた。しかし講演で実際の小・中学校での性教育の内容ややりとり,子どもたちの疑問などを聴くことで「子に応じた性教育への理解の深まり」がみられ,年齢に応じて理解できる言葉を用いればよいことや伝え方に正しい答えはないこと,自身の行動にかかっているとの気づき等が述べられた。具体的なイメージが描けることによって幼い頃からの関わり的重要性や,性教育が親の役割の一つであるという認識に結びついたことが示唆された。特に母親が異性である男児への性教育に抱く苦手意識や不安については講演がその軽減に役立ったと考えられ,「子どもがいろいろなことに興味を持つ中に当然,体のことも含まれているし,ごまかしたり否定したりではなく年齢や理解に合った返事をしていくことが大切」といった先行研究(及川,1998)にも通じる貴重な気づきを得ている。性教育はそれのみで行われるものではなく,日常での関わりや子との関係性が重要な土台であり,子の成長への関心が基本であることを親自身が理解できることが重要である。

また講演を通じて「自分が大切にされていることを実感し,また自分を大切にできる心を育てることこそ本当の性教育である気がした」,「生きることの基本となることだと思った」と自身の性教育観が語られたほか,「女性に生まれてよかった」,「早く2番目の子どもがほしくなった」と自身を肯定する素直な感じ方が表現できており,自分の性や“生きること”について考える機会ともなったことがうかがえる。[自分のことを大切にしたい]との概念の出現には,性教育講演会が単に指導や教育の側面だけではない役割を果たし得たことが示されており,親自身の肯定感情を高め,内的成長を目指したアプローチとなり得ることが示唆された。

### 参考文献

- 及川裕子(1998).幼児期の性教育の意義.日本赤十字武蔵野短期大学紀要,11,30-36.
- 高橋久美子(2003).親の性意識が性教育に及ぼす影響—父親と母親のセックス観をもとに—.日本家政学会誌,54(1),59-67.